

2022 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2022年度春夏学期アンケート回答期間：2022年7月8日（金）～8月8日（月）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、72.2%であった（2021年度春夏学期 22.9%：、同年度秋冬学期 20.6%）。

2022年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目

対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	10	367
	行動系科目	27	247
	社会人間系科目	12	96
	教育系科目	23	291
	共生系科目	20	176
大学院科目	共通科目	6	37
	行動系科目	27	110
	社会人間系科目	9	38
	教育系科目	24	150
	共生系科目	17	96
G30科目		21	170
計		196	1778

回収数 1778 / 受講登録者数 2463 = 回収率 72.2%

※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、今回よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2022年度秋冬学期の授業改善アンケート回収率は72.2%となり、2021年度春夏学期の22.9%から49.3ポイントと大幅に上昇した。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、平均が4.50(前年度4.40)と非常に高い値となった。学系別集計によると、学部 of 行動系・社会人間系・教育系科目および大学院科目において、「非常に良かった」と回答している学生の割合が大幅に向上している(行動系:38.5%→60.3%、社会人間系:54.1%→68.8%、教育系:47.5%→53.3%、大学院:57.7%→68.8%)。これらの科目に関しては、問9「この授業「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても「強くそう思う」と回答している学生の割合が大幅に向上しており(行動系:31.9%→44.1%、社会人間系:29.7%→45.8%、教育系:34.4%→40.5%、大学院:42.3%→52.0%)、専門的知識の修得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が87.5%と高い数値ではあるが、2021年度秋冬学期94.6%よりも8.9ポイント減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった2021年度の結果と、対面授業やブレンデッド授業へと徐々に移行してきた2022年度の結果は、単純に比較できない点に留意する必要があるとはいえ、出席率の向上は今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは11.6%となり、前年度の13.0%からさらなる改善をみせた。この点に関しては、オンライン授業が中心となった2020-2021年度のあいだに授業外学修にかんするさまざまな対策・工夫がなされたことが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が70.2%(前年度68.6%)、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が23.6%(前年度20.7%)、「そう思う」が60.5%(前年度61.1%)、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が47.2%(41.7%)、「そう思う」が45.1%(47.8%)といずれも前年度並みに高い値となっている。このことから、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問9の学問的知識の習得および問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2021年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

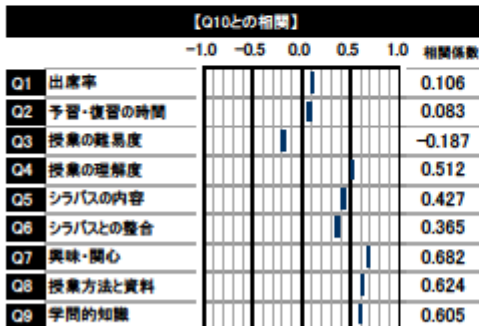
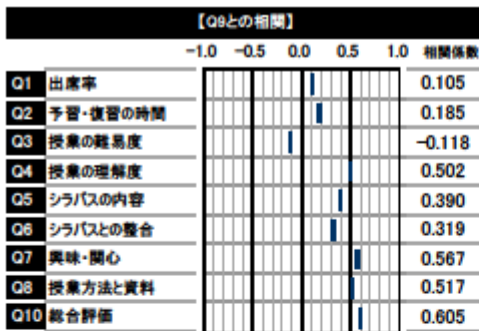
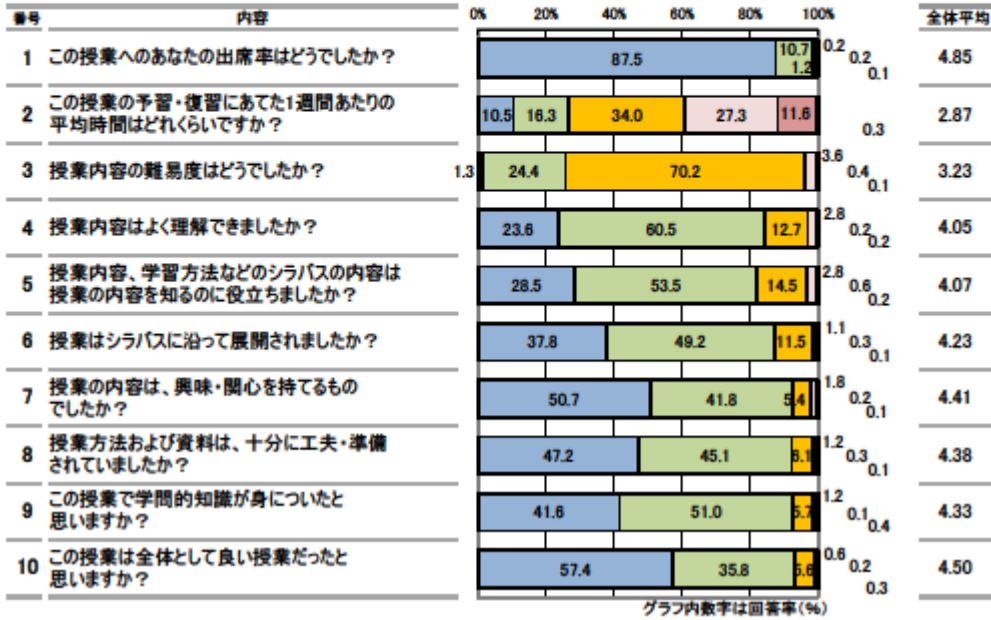
※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学

院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

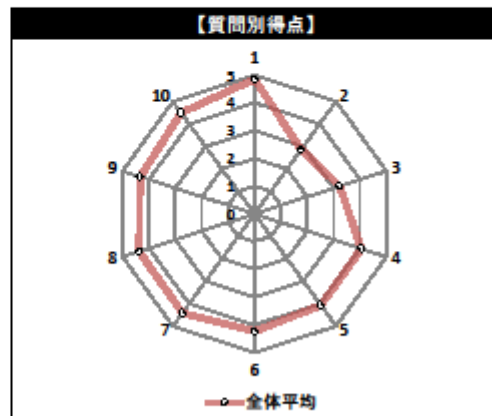
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に振り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

全体集計	履修者数	2463
	回答数	1778
	回答率	72.2%



回答凡例	5	4	3	2	1	-
記号	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	80~80%	40~80%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しく感じる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも書えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	まあ悪かった	かなり悪かった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10ほどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

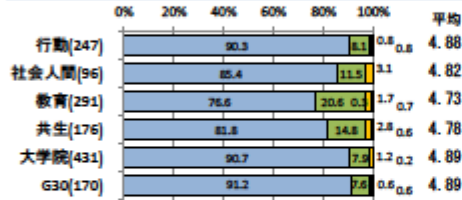


学系別集計【全体】

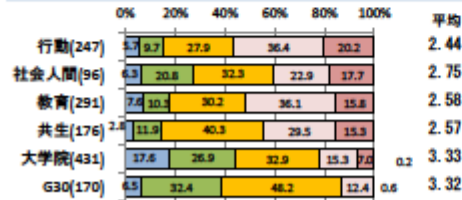
※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	目印なし	
質問3	詳しく学ぶ	やや詳しく	適度	やや詳しく	詳しく学ぶ	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く思う	やや思う	どちらでもない	思う	全く思う	
質問10	非常に良かった	良かった	普通	悪かった	非常に悪かった	

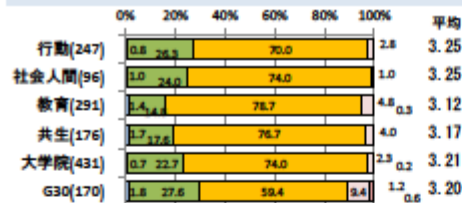
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



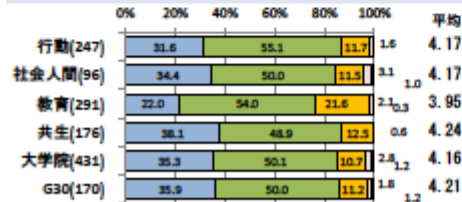
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



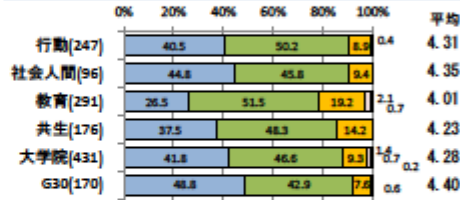
4. 授業内容はよく理解できましたか？



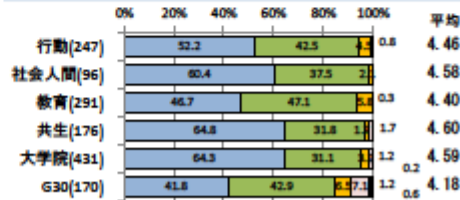
5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



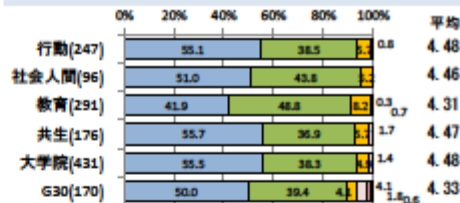
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



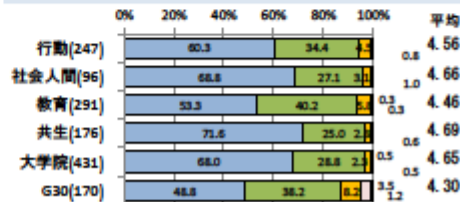
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 196 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 52 科目であり、平均値 4.50 を上回ったのは 29 科目であった。

2022 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	共生社会論Ⅱ	39	4.90
2	ヒューマン・ファクターズ心理学	18	4.83
3	文化社会学演習	17	4.76
4	社会科・地理歴史科教育法Ⅲ	12	4.75
5	共生の技法Ⅱ	19	4.68
5	グローバル化と文化	22	4.68
7	Issues in Gerontology	14	4.64
7	臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習）	11	4.64
9	教育・学校心理学	36	4.61
10	教育哲学	31	4.58

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	Academic Reading	12	5.00
2	心理支援法特講（心理支援に関する理論と実践）	11	4.91
3	臨床心理学特定演習Ⅰ	11	4.82
3	教育哲学特講	11	4.82
5	共生社会論特講Ⅰ	14	4.64
6	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	16	4.63
7	比較発達心理学特講Ⅱ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	12	4.50
8	共生行動論特講Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	18	4.28
9	地域創生論特講Ⅰ	15	4.20
10	人格心理学特講	11	4.09

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

⇒今年度は、新型コロナ感染防止対策のため、学部専門科目「認知心理生理学（神経・生理心理学）」と大学院科目「基礎心理学特講Ⅰ」をどちらも15回のハイブリッド形式で講義した。CLEを使って、授業後に小テストを行ったり、質問を受けつけたりして、コミュニケーションをとる工夫をした。授業改善アンケートは回答数が少なかったが、概して高評価であった。しかし、学部の授業は1時限目であったために、オンラインで聴講する人が多かった（8割以上）。対面授業の方がその場で質問したり、教員が理解度のチェックができるので、来年度は対面での受講を学生に強く推奨したい。

篠原 一光

⇒春夏学期は少人数の演習形式の授業のみであり、いずれも特段問題はなかったと考えている。今後も同様の授業を継続していきたいと考えている。

三浦 麻子

⇒今年度春夏学期は学部・大学院ともに演習やゼミの科目しかありませんでしたので、する方もされる方も定型フォーマットでの評価は難しかったです。ただ、受講者とインタラクションするための方法は多様な方がよいので、今後もこうした結果を参考にしながらより良い授業運営を目指すつもりです。

綿村 英一郎

⇒（集団力学について）要望として、オンラインだと受けやすい、スライドの文字をもっと大きくしてほしいというご意見をいただきました。来年度以降はなるべくそのように改善したいと考えています。ありがとうございました。

青野 正二

⇒アンケート全体を振り返った場合、学系別集計（全体）の結果において質問1～10の質問別得点の分布を見ると、学系間ではある程度の差異があるものの、学系ごとの平均はほぼ同等の値となっている。したがって、大局的な観点からすれば学系のバランスがとれていると考えられる。また、これを指標として、各講義科目の質問別得点の平均値がそれと同等であるか、あるいはどれくらい離れているかを把握すれば、今後の授業方針を決める上で役に立つのではないだろうか。

中井 宏

⇒概ねポジティブな評価が得られており、今後の参考としたい。

鹿子木 康弘

⇒演習系の授業はゼミ生だけ対象ということもあり、うまくおこなうことができたかと思います。講義科目は、大学院生対象ということもあり、人数が少なかったですが、うまく運営できたと思います。ただ、予習・復習に関しては、全体平均より低い数値であるので、改善の余地があるかなと思いました。

八十島 安伸

⇒● 人間科学概論

本科目の目的は、入学したばかりの1年生に対して、人間科学の考え方や多様性、そして、今後の4年間の過ごし方などをさまざまな視点から体験・体感してもらうことであったため、体系的な学問的知識の教示・紹介ということは注力しませんでした。そのためか、知識の獲得を期待していた学生にとっては期待外れであったかもしれません。知識獲得それ自身は非常に大事なもので、今後でも取り組んで欲しいのですが、本学部では、課題を掘り起こす力・発見する力、課題に関わる事実や知識を探しつつ、データ・知識・理論をまとめる力、課題内容と関連データ・知識の関係性を俯瞰的に考察する力、知識・考察を実践に活かす力などを育むことも重視しています。そのため、それらの能力を育む「きっかけ」となる科目として、そして、人間科学の基礎としての基本方針は来年度も踏襲する予定です。また、教室のサイズによる資料・スライド視聴の問題、課題の出題・提出方法の問題など、今後の改善点は確認できました。次年度以降にはより良い方向で工夫したいと思います。それらの課題がある中で、全体評価は概ね良い結果となったのは、多くの担当教員の先生方が良い講義・話題を提供してくださったこと、そして、それらを受講生の皆さんが真摯に、かつ積極的に受けとめ、活かすように授業に参加してくれたことが理由であると思います。今後も、人間科学部で学び、体験するさまざまな学問や取り組みに積極的に参画して欲しいと思います。

●学習生理学（学習・言語心理学）

内容そのものには概ね分かり易く、理解できたという回答が主でしたので、内容はこのままでも良いかと感じます。ただ、講義形態や運営方針には少し工夫が必要なコメントもありましたので、次回以降の参考とさせていただきます。

足立 浩平

⇒担当科目全体についてまとめて、次にコメントします。数理科学系の分野は一見難解で、すべて理解するのは不可能なので、理解できなくてもよい部分を見出す嗅覚を持つことが大切です。

山本 倫生

⇒一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思います。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

中野 良彦

⇒大学院科目、学部の実験実習及び演習に関しては受講者が少ないため、早急に授業内容を変更することはないと思います。「行動形態学」の結果については、受講生の多くは、この講義内容とは研究内容大きく異なる研究室に所属しており、やや評価が平均より低めになる傾向が例年認められる。今後一層、図表やビデオを利用したわかりやすい講義内容となるように工夫していきたい。

山田 一憲

⇒グループディスカッションは受講生の理解を高めるという意見をもらいましたので、今後取り入れたいと思います。

【社会学・人間学系】

村上 靖彦

⇒ほぼ平均だったのですが、引き続き改善していきたいと思います。

福岡 まどか

⇒アンケートの結果、基本的知識や考え方を学ぶことはある程度達成できたと考えます。授業に参加された皆さんの取り組みもとても良く、またテーマや着想もユニークなものが多く見られたと思います。難易度については、適切なレベルという意見もありましたが、全体的な評価は難しかったようですので、やはり全員が取り組みやすい授業の内容について今後も改善を重ねていきたいと考えております。

【教育学系】

岡部 美香

⇒人間科学部（研究科）だけではなく他学部（他研究科）の受講生からも一定の評価をしていただけて光栄です。これからも、基礎的な内容をしっかりと押さえていきたいと思ひますし、ディスカッションも効果的に取り入れていきたいと思ひます。ご意見、ありがとうございました。

藤川 信夫

共生の人間学特別演習 I-b

⇒大学院の演習については、分野色をより強く出すと共に、他分野への参加を歓迎する旨シラバスに記載したいと思ひう。

管生 聖子

⇒受講生の皆さんの授業への意欲も高く、しっかり学びを深めてくれたものと思ひます。アンケート回答率も高く、学生さんにお礼申し上げます。

西森 年寿

⇒結果を眺めつつ、全体的に平均的なスコアかなあと認識しました。数値だけだとなかなか改善のポイントがつかみかねるところ、一部で自由記述いただいたものはありがたかったです。学部・院ともに授業内容を漸次的に変更している途中でもあり、具体的にこう変えるといいづらいのですが、よい形におちつくよう努力します。

野坂 祐子

⇒どの科目も、意欲的に学ばれていたようでよかったです。
グループワークが好評だったので、継続したいと思います。
臨床現場のゲストスピーカーの要望があがっていたので、コロナの状況次第ではありますが、次年度以降に検討してみます。
教員を含め、さまざまな人の意見を聞きたいというニーズがあることがわかりました。

老松 克博

⇒臨床心理学特別演習Ⅰ，臨床心理学特定演習Ⅰ，臨床心理査定演習Ⅰ，臨床教育学実験実習Ⅱなどのアンケート結果について、まとめてコメントします。総じて、予習・復習にあてた時間が少なかったということでした。これは臨床心理学の授業の内容が、事例性や一回性をとりわけ重視していることの反映だと思います。予習・復習のしようがないことこそ、私たちが学ぶべき最も重要な事項です。その点をご承知おきください。そういう内容こそが後々役に立つことをいずれおわかりいただけると信じています。

野村 晴夫

公認心理師の職責・臨床心理面接特講Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)
⇒講義系の授業に比べると、実習・演習系の授業では、質問項目9に表れる知識習得のような達成感に改善の余地を覚えました。

佐々木 淳

⇒「臨床心理学特講Ⅰ」 おおむね評価や満足度は高く、授業目標は一定以上に達成されたものと考えています。臨床経験がそれほどない時期の授業ですので、手探りをお願いすることも多かったと思いますが、よくついてきてもらえたと感じました。

岡田 千あき

生涯スポーツ学特講
⇒他の学科目の方の受講が多かったのですが、熱心に受講していただいたという印象でした。講義内容のレベルについて手探りの部分が多かったのですが、アンケート結果から適切であったことが分かり安心しています。
ゲストスピーカーの話が印象的だったとのことで、今後も色々な専門の方をお呼びできればと思います。よろしければ、また、受講してください。

【共生学系】

檜垣 立哉

⇒今回は演習授業がほとんどであったので、授業に比べてあまりいうこともないのだが、おおよそは満足が行く結果なのではとおもう。とりわけ学部演習は5冊の本を読んだのにもかかわらず、みなさん易々とこなしてくれたようで、さすがだな（普通は大変です）とおもう。大学院演習はどれだけインタラクティブに各人の研究を支えるのが大事であると思うので、それを心がけていきたい。

千葉 泉

⇒学生との間のコミュニケーションをさらに改善することで、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握し、迅速にフィードバックを行うことで、より受講生のニーズに対応した授業の構築に努めます。

澤村 信英

⇒（国際協力学演習Ⅰ）受講生と教員、双方が協働することで、満足度の高い授業が行われていると思う。とくに予習・復習にかかる時間が全体平均より長いことがわかり、演習科目としての役割を果たせていることが確認できた。

【学系外】

*国際交流室

安元 佐織

人間科学特殊講義 III

⇒英語での講義ですが、受講生全員がディスカッションやレポートに一生懸命取り組んでくれて、私自身も講義を楽しむことができました。

*公認心理師プログラム運営室

平井 啓

⇒「健康・医療心理学」では、今年度より SLIDO を使った質問掲示板を導入し、授業前後での質問のフィードバックを行った。次年度も同じシステムを使い、より効果的なフィードバックがかかるように授業運営をおこなっていく。

「精神疾患とその治療」については今季より講義部分がオンデマンド、事例検討のグループワークを組み合わせる授業となった。保健学科、歯学部、人間科学部の受講生が混ざって、ディスカッションは活発に行われていた。

「人体の構造と機能及び疾病」は、対面・オンラインのハイブリッドでそれぞれを入れ替えながら授業を行った。来季も、いずれも連携先の部局担当者との連絡を取りながらスムーズな授業運営を行っていく。